

「勇気ある信仰」 Courageous Faith

ローマの使徒への手紙 1章16～17節

聖学院大学 人文学部チャプレン エバート・D・オズバーン

テーマ： 勇気ある信仰は信じがたいほどの功績をもたらす。 / Courageous faith can lead to incredible achievement.

今日の全学礼拝は、聖学院大学シリーズ礼拝の“御言葉に聞くー 宗教改革500周年を覚えて”の第二回目に当たります。中部ドイツにある人口およそ二千人の小さなへんぴな町、ヴィッテンベルクの神学の教授であったマルティン・ルターによって始められた宗教改革は、ローマ・カトリック教会からの教派分裂の革命でした。敬虔なカトリック教徒として育てられ、教育されたルターでしたが、神の御言葉である聖書を学んでゆく内に、彼はヨーロッパのローマ・カトリック教会の教理とそのある実践に対して、深い疑問に至りました。ルターの考えを変え、そして、プロテスタントの基本となった聖句はローマの信徒への手紙1:17です。「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」([新] pp. 273-74)

実際、この聖句のかぎとなる部分は、旧約聖書のハバクク書からきています。ハバクク書 2:4bに次のように書かれています。「…しかし、神に従う人は信仰によって生きる。」([旧] p.1466) これらの聖句からマルティン・ルターは、教会でも司祭たちでもなく、また他の何ものでもない、ただキリストによる“信仰のみ”が、神の前に義とされる人となることを確信させられました。ラテン語のソラ・フィデイ(“信仰のみ”)、ソラ・スクリプチャー(“聖書のみ”)という、この理解が、教会ではなく、聖書のみが罪ある人間を救いに導く権威であるという考えが、ルター神学の基本となりました。ルターは“信仰のみ”そして“聖書のみ”が真のキリスト教の神学の土台であり、その当時のカトリック教会が真理からそれていたと確信していました。したがって、33才のマルティン・ルターは、1517年10月31日の日に、“95ヶ条の提題”として知られることになった教会の教理を ヴィッテンベルクの大聖堂の正面扉に掲示しました。

ルター博士がその時試みていたことは、当時のカトリック教会が“信仰のみ”としている教理に反していた学者達に対して、宗教的議論をなげかけ、戦おうとしていたのです。彼は、決して新しい宗教運動を始めるといような意図はありませんでした。しかし、これがプロテスタント改革の発端となり、1517年10月31日がプロテスタント教会の誕生の日と知られることになりました。勿論、ヨーロッパにおけるカトリック教会はその当時、圧倒的な権威をもった存在であり、マルティン・ルターの始めたこの行動には偉大な勇気が必要でした。実際、ルターは彼の教えも文書も撤回することを拒否した為、1521年に、彼はカトリック教会から破門されました。

その同じ年、ルターは本質的な裁判に呼び出されました。神聖ローマ皇帝の カール 5 世とその他多くの指導者らの前で、ルターは次の有名な声明を 歴史に残しました。“聖書による明白な根拠がない限り、また、単純且つ明白な理由と論議がない限り、私は自分の主張を撤回しません。なぜなら、良心に反することは危険であり、賢明ではないからです。ここに私は立つ。私には他の選択はありません。神よ助けたまえ。アーメン！”

「ここに私は立つ」。マルティン・ルターは自分の命の危険を知っていましたが、彼は自分の信仰の上に立つ勇氣を持っていました。彼の勇氣ある信仰によって、彼は初期のプロテスタント宗教改革で靈に満ちた指導者となりました。ルター、そしてその他彼と同じような指導者達の業績のおかげで、プロテスタント教会が生まれ、五百年間の力強い成長をしてきました。勿論、このプロテスタント宗教改革がなければ、聖学院は今日ここに存在することはなかったのです。今日、マルティン・ルターについてお話したことは、ほんの氷山の一角にすぎませんが、その中からも、実際に私たちが日常生活に当てはめる事の出来る次のような学びが有ると思います。

- 1) 神様の御言葉、聖書には偉大な力がある。
- 2) 世間の人気にとらわれず、ただ正しいことを行う。
- 3) 時に私たちは、真理の為に立ち上がらなくてはならない。
- 4) 一個人でも、大きな変化を生み出すことができる。
- 5) 勇氣ある信仰は世界を変えることができる。

実際、歴史の中でいつの時も、どの国でもこれらことを真剣に考える人々を必要としています。これが、“世界が必要とするもの”のメッセージです。 それでは、プリントをごらんください。お読みします。

[Read “What the World Needs.”]

今月、私たちはプロテスタント宗教改革の五百年記念を覚えお祝いしています。マルティン・ルターが勇氣ある信仰をもって、たった一人で始めたことを覚えながら始めましょう。ルターのお手本から学びましょう。私たちは全世界を変えることができなくても、自分がかかわる小さな世界を、勇氣ある信仰をもって生きてゆけば、確かに変えてゆくことができるでしょう。お祈りいたします。

祈祷:天の父なる神様、今日ここに集われた一人一人を感謝いたします。皆様の上に、あなたの豊かなみ恵みが注がれますようにお祈り致します。また、勇氣ある信仰をもって世の中に大きな衝撃を与えたマルティン・ルターのような人々を感謝いたします。私たちそれぞれが、ルターの残したお手本から学び、実践してゆくことができますようにお導き下さい。そして、私たちも勇氣ある信仰をもつことができますようにお助けください。この祈りを、尊き救い主・イエス・キリストの御名を通してお捧げ致します。 アーメン。

2017年10月3日 聖学院大学 全学礼拝(シリーズ礼拝)

What the World Needs

The world needs people...

- 1) who cannot be bought;
 - 2) whose promise is true;
 - 3) who put character above wealth;
 - 4) who possess opinions and a will;
 - 5) who are bigger than their jobs;
 - 6) who do not hesitate to take chances;
 - 7) who do not lose their individuality in a crowd;
 - 8) who will be honest in small things as well as big;
 - 9) who will not compromise with wrong;
 - 10) whose ambitions are not confined to their own selfish desires;
 - 11) who are not afraid to stand for the truth when it is unpopular;
 - 12) who can say “No!” with emphasis, although the rest of the world says “Yes.”
- Ted Engstrom, The Making of a Christian Leader

世界が必要とするもの

世界は必要としている...

- 1) お金で買うことのできない人々
- 2) 約束に誠実である人々
- 3) 富よりも人格を重んじる人々
- 4) 自分の意見と意志を持つ人々
- 5) 仕事よりも重要なことをしている人々
- 6) リスクを恐れない人々
- 7) 群衆の中で個人的特性を失わない人々
- 8) 大きな事と同じように小さな事にも忠実であろうとする人々
- 9) 悪と妥協しない人々
- 10) 志を、自分の利己的願望に左右されることがない人々
- 11) 真理が受け入れられない時でも、真理のために立つことを恐れない人々
- 12) 大勢の人々が「はい」と言っても、不正なことには「いいえ」と明確に言える人々